

平成30年度 元気生活圈元気創出応援事業

大学生等による地域づくり支援

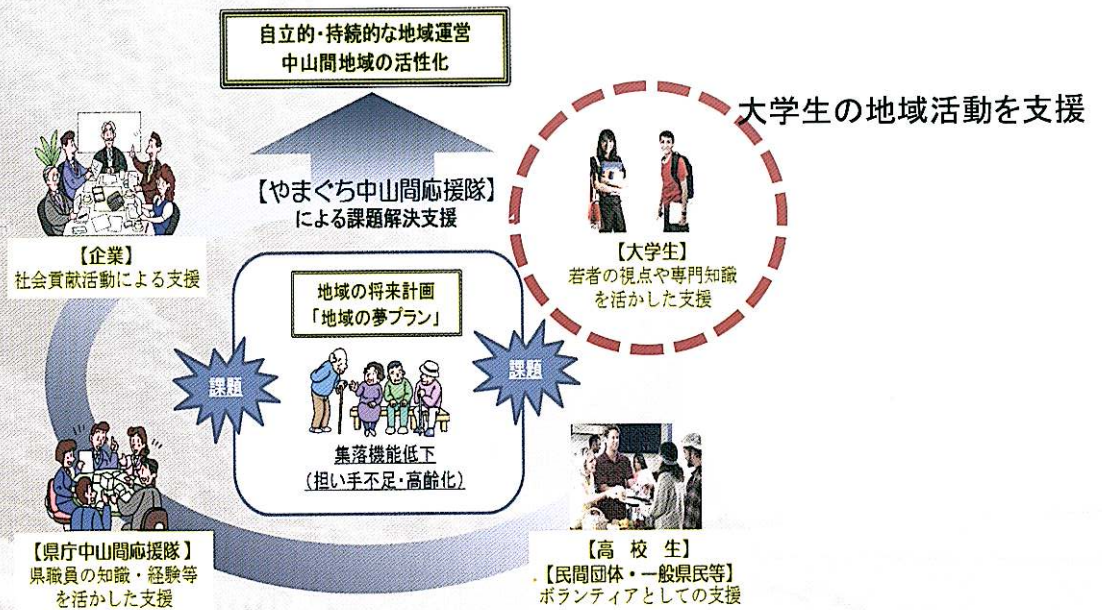
支援大学等活動報告集



中山間地域活性交流会

平成30年度 元気生活圏元気創出応援事業 概要

中山間地域における担い手不足に対応するため、企業、学生、県職員、一般県民など、あらゆる外部人材を活用し、住民による地域課題の解決や地域資源の活用等に向けた自主的・主体的な取組を支援する。



◆大学生等による地域づくり支援

大学生等による地域課題の解決に向けた支援活動を促進する。

【活動者】地域と学生グループ(大学、短大、高専等)で組織する地域協議会

【採択数】年間8件以内

《事業のしくみ》 —大学生等による地域づくり支援—

〈支援の流れ〉

- ①支援地域の募集
県は、市町を通じて支援希望地域を募集
- ②学生グループの募集
センターは、地域を支援する学生グループを募集
- ③マッチング
センターは、地域と学生グループをマッチング
- ④活動実施
地域と学生グループ等が地域協議会を設置し、活動を実施
- ⑤活動報告会
毎年度、活動報告会を実施

〈役割〉

学生グループ	やまぐち中山間地域づくりサポートセンター (山口県立大学)		
<ul style="list-style-type: none"> □ 若者の視点や専門知識を活かした地域の実践活動の支援 	<ul style="list-style-type: none"> □ 中山間地域を支援する全国団体との調整や各大学等の中山間地域支援の情報等をもとに、学生グループの募集(5人以上の参加他条件あり) □ 地域と学生グループのマッチング 		
	地域	市町(地域の支援)	県(市町・地域の支援)
<ul style="list-style-type: none"> □ 地域課題やニーズに応じた学生グループの受入 □ 地域課題の解決に向けた実践活動の展開 	<ul style="list-style-type: none"> □ 地域課題やニーズの把握 □ 受入時の調整・支援 	<ul style="list-style-type: none"> □ 支援希望地域の募集(一定の要件あり) □ 推進体制の構築 □ 活動成果の普及 	

目次

◆ 大学生等による地域づくり支援

地域	協議会名	大学等グループ名	掲載ページ
長門市 油谷向津具地区	向津具半島 民俗活用協議会	九州産業大学等 文化保護発信プロジェクト みゆじえじえ	3
長門市 通地区	通まちづくり協議会	山口大学経済学部 鍋山ゼミ	7
山口市阿東地福 地区	特定非営利活動法人 ほほえみの郷トイトイ	山口大学工学部リノベ部	11
周南市 大道理地区	大道理夢求の里交流館 憩いの広場整備 プロジェクト	徳山工業高等専門学校 土木建築工学科デザイン研究部	15

事業名：向津具半島エコミュージアム化 に向けた民俗活用事業

地域協議会名：向津具半島民俗活用協議会

活動期間(予定)：平成29年度～平成31年度

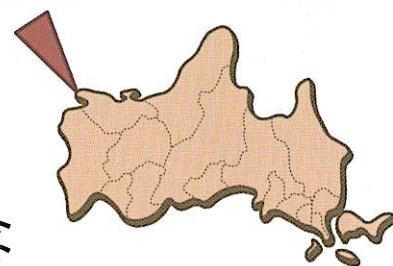
発表者：九州産業大学等 文化保護発信プロジェクト
みゆじえじえ

地域の現状と課題

- 活動地域：長門市向津具半島

- 地域の概況

人口約1,450人、高齢者人口割合は
約51%という過疎化、高齢化の深刻な
地域。その一方で、移住者による活発な活動が
特徴となっている。



- 地域の課題およびニーズ

向津具半島では、移住・定住・交流人口の増加を目的
にエコツーリズムへの関心が高まりつつある。

しかし、商品開発に向けたツールは不揃いな現状にあり、
歴史遺産として地域に眠る、民俗文化の発掘が必要。

取組の概要

到達目標

民俗に関するエコツーリズム関連商品の開発による地域活性化。

地域協議会の活動内容(予定)

平成29年度

- ・地域住民と大学生との意見交換、交流会議
- ・向津具半島の民俗調査
- ・エコミュージアム化に向けた案内システムの構築
- ・中核機能としてのジオラマ・看板作成
- ・年間報告書の作成、発表

平成30年度

- ・地域住民と大学生との意見交換、交流会議
- ・向津具半島の民俗追加調査
- ・中核機能のモニタリングによる課題把握と改善
- ・サテライト機能としての構成検討、確立
- ・年間報告書の作成、発表

平成31年度

- ・地域住民と大学生との意見交換、交流会議
- ・サテライト機能のモニタリングによる課題把握と改善
- ・サテライト機能の観光資源としてのアップグレード
- ・向津具半島エコミュージアム化プログラムの今後の活用に関する展望をまとめた報告書の作成・発表

大学等の支援内容(予定)

地域住民と大学生の意見交換を通じて、民俗文化のヒアリング調査を行い、エコミュージアム化に向けた案内システムの一環としてジオラマを作成。

地域住民と大学生の意見交換を通じて、民俗文化の追加ヒアリング調査を行い、ジオラマのモニタリング・サテライト機能に関する助言・改善活動を行う。

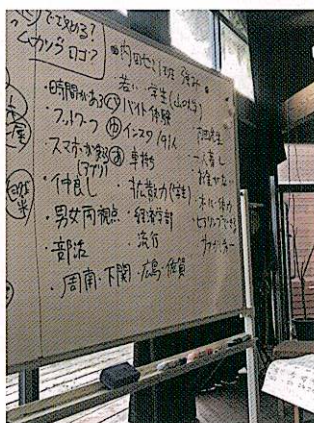
地域住民と大学生の意見交換を行い、サテライト機能のモニタリング・観光資源としての価値化に対する助言・改善活動を行う。

活動状況①

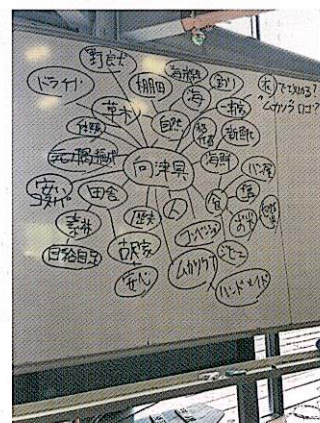
○民俗文化・追加ヒアリング (向津具型ツーリズム調査)



海岸で漂流物の調査を行いました。



向津具の民俗について整理していきました。



メンバーでディスカッション。



観光客が激増している神社にも立ち寄りしました。

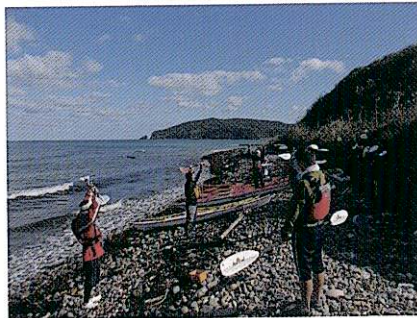
活動状況②



海に囲まれた向津具ならではの「釣り」に秘められた様々な民俗を紐解いていきました。



しめ縄を作る文化も残っています。



カヤックは、向津具の周囲をぐるりとめぐってこの地ならではの地形や伝説の学習に有効です。



活動状況③



祈りのシンギングサークルや花酔い会など女性の多い集まりでもヒアリング調査をさせていただきました。

○展示準備中のジオラマ



ジオラマを向津具半島の体験交流スペースに展示し、エコミュージアム機能を持たせて活かしていきます。

取組の成果等

- 地域の課題に対してどのような効果があったか
今年度は向津具半島の自然・食・遊び・学び・人・伝統的な暮らしの素晴らしさを知ってもらう「向津具型ツーリズム」を中心に追加調査やジオラマのモニタリングを実施。保護すべき文化資源のさらなる情報収集や、昨年度の課題の地域性の発信を目的とした、ジオラマの展示につながった。
- 残された課題や今後の取組
向津具半島エコミュージアム化プログラムの一環として、サテライト機能をより多くの人々に知ってもらえるよう、観光資源としてアップグレードする。

活動参加者

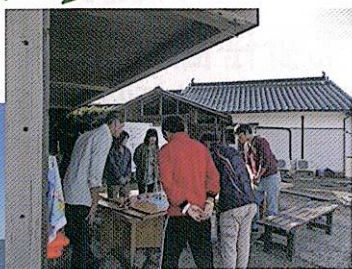
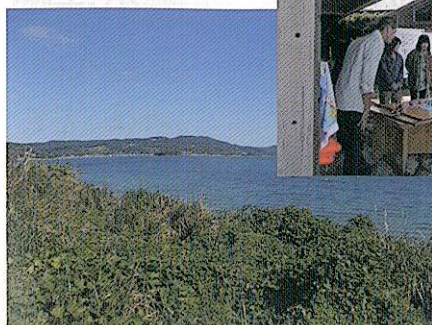
地域での受入組織

フューチャー長門

人数20名

向津具型ツーリズムの民俗資源の価値を教えてくださいありがとうございます！

ジオラマがあるおかげで、向津具半島の民俗の価値を様々な人に発信できてうれしいです。



支援大学等

九州産業大学等 文化保護発信プロジェクトみゆじえじえ

人数10名

地域の民俗をツーリズムに取り込んで体験型学習ができるようにしていて素晴らしいです！

エコミュージアムの要のジオラマの体験交流拠点への展示で案内・学習がしやすくなりますね！



事業名：旧通中学校の利活用を中心とした通地区活性化プロジェクト

地域協議会名：通まちづくり協議会

活動期間(予定)：平成29年度～平成31年度

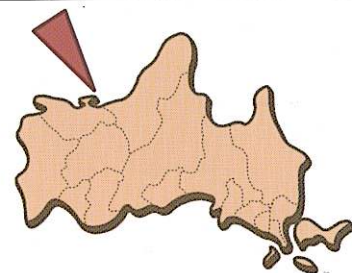
発表者：山口大学経済学部 鍋山ゼミ

地域の現状と課題

- 活動地域：長門市通

- 地域の概況

少子高齢化が進んでおり、中学校の廃校が、さらなる若年世帯の流出に拍車をかけている。



- 地域の課題およびニーズ

漁業の衰退や廃校により加速する少子高齢化が、地域課題である。そのため、廃校になった旧通中学校を利用して、地域の活性化の一助としたいというニーズがある。住民への聞き取り調査や学生とのワークショップによって、旧通中学校の利活用計画を立てることに加えて、住民みずからのまちづくりへの参画意識を高め、地域の活性化にできるだけ多くの住民がかかわることができるようなしくみづくりが必要である。

取組の概要

到達目標

通地区の活性化につながる旧通中学校の利活用計画を策定する。

地域協議会の活動内容(予定)

大学等の支援内容(予定)

平成29年度

- ・通くじら祭りの開催
- ・住民全戸調査の実施協力
- ・山口大学生が計画するイベントの実施協力
- ・旧通中学校利用についての調査報告会の実施

07月 通くじら祭りへの参画
11月 住民全戸調査の実施
11月 地元高齢者と外国人観光客をターゲットとした二つのイベントの実施
03月 旧通中学校利用についての報告会

平成30年度

- ・通くじら祭りの開催
- ・大学生との海底清掃と住民WSの実施
- ・釣り大会と旧通中学校を利用するイベントの実施協力
- ・旧通中学校利用についての調査報告会の実施

07月 通くじら祭りへの参画
09月 旧通中学校の清掃と住民WS
10月 釣り大会、魚捌き体験、旧中学校を使用するイベントの検証
02月 旧通中学校利用についての提案と協議

平成31年度

- ・通くじら祭りの開催
- ・旧通中学校の継続的使用に向けた大学生との協力関係の構築
- ・旧通中学校を利用するイベントの実施協力
- ・旧通中学校利用についての調査報告会の実施

05月 継続的な旧通中学校の使用に向けた準備
07月 通くじら祭りへの参画
08月 部活動の合宿イベントを開催
10月 地元住民を対象とするイベントの開催
02月 旧通中学校利用についての報告会

活動状況①

通釣りイベント -鍋山ゼミチーム対抗 釣り大会-

目的:ゼミ生だけで釣り大会を行い、
釣りイベントの実現可能性を検証

方法:①3人一組、計8チームを作る
②波止場にて各人で魚を釣る(2時間)
③各チームで釣れた魚のうち、
大きな魚3匹の合計値で順位を決める

結果:釣りのための道具面、釣り人の知識面、
ごみや手洗い場などの衛生面の課題を抽出した



最終目的:

- ✓ 新規釣り客の増加
- ✓ 通で行われる他のイベントへの参加促進 (Ex.鯨祭り)
- ✓ 釣り客のマナー改善

活動状況②

魚捌き・グランピング

目的: 旧通中学校の活用方法として、
魚捌きとグランピングを体験する

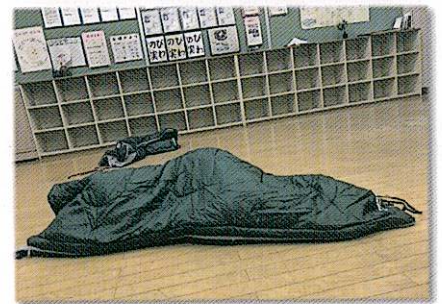
方法: 魚捌き

旧中学校の教室と調理室を清掃し、使用
地域のお母さん方にヤズとイカの捌き方を教わる

捌いた魚を調理した

グランピング

旧中学校の教室などで一泊する
入浴は民宿「沖千鳥」で
朝食は魚捌きで調理したものを



結果: 実施のためのコストや旧中学校の設備面の問題が見えた

活動状況③

観光資源の発掘

目的: 通の観光についての模索

⇒ 通の観光資源: 歴史的な文化・建物、釣りスポット etc..

方法: 船を使って青海島を一周した(沖千鳥の船を使用)

結果: 陸からでは見られない通の景色を知ることができた

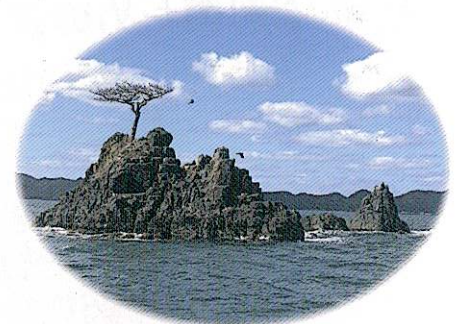
地域の人のアナウンスによって、通の歴史を学べた
船の上でのご飯など、非日常を体験することができた

考察: 釣りイベントとの連携が可能

船上での食事体験などの可能性を探る

SNSの拡散などによる新たな集客を
見込むことができる

⇒ 来年度の動画撮影につなげる



取組の成果等

・地域の課題に対してどのような効果があったか

大学生が地域の祭りや清掃活動に参画し、旧通中学校を利用してのイベントをおこなうことを通じて、住民に対して「大学生がまちづくりの取り組みをしている」ことの意識化を促した。また、観光や旧通中学校を使用するイベントについての検証をおこなうことにより、実際の開催をするうえでの様々な課題を抽出することができた。

・残された課題や今後の取組

一番の課題は、限定的なメンバーを除いて住民のまちづくりへの主体的参画が得られないことである。地元継続的にまちづくりにかかわることのできる人材が生まれ限り、まちづくりへの取り組みは一過性のものになる。今年度は、①地域内の子どもと②高齢者、そして③地域外の人々をターゲットにした旧通中学校の利用促進策を実施し、来年度以降の継続利用につなげたい。また、若い世代に地域をアピールするための動画づくりもおこなう。

活動参加者

地域での受入組織

通まちづくり協議会

人数26名

- ・ 新谷 勇
- ・ 久保田 稚枝子 他

学生の皆さんの活動や提言は、地区住民が地区の将来について考える起爆剤になっていると思います。

旧通中学校の利用に対しての提言もあり、若いみなさんのアイデアで、通地区が活力ある町になれるよう力添えをお願いします。

中学校の外部からの利用についても提案をいただき、試行に移せる見込みとなり、一歩前進したように思います。課題はあると思いますが、実行し、小さくても成果を出すことで、次につながると思います。引き続きよろしくをお願いします。

山大学生が通に足を運んでくれ、若い人の姿が地区内で頻繁に見かけられることだけでも、地区の将来が明るくなると思います。また、各種の企画や、地区内のイベント等への参加により通地区の活力が生まれています。

支援大学等

山口大学

人数30名

- ・ 2年 中村秀香
- ・ 2年 大谷陽
- ・ 2年 西田美乃里 他

通の地域活性化をやってなければできなかった経験がとても多くあり、有意義な時間でした。

地域活性化の面白さと難しさの両方を実際にやってみることで感じました。来年度はより地域の方と親交を深めて、様々な活動を行なっていきたいと思っています。

活動を通して地域活性化の大変さや難しさも感じましたが、お祭りやイベントのなかで地域の方と実際に関わることで親交を深められた点は、通について知ることでもできたし良かったと思いました。

地域の方々との交流を通して様々な経験を得ることができました。地域活性化において、住民の方々の意見を取り入れることの難しさも感じ、とても良い経験になった。

事業名：空き家リノベーションモデルハウス 事業

地域協議会名：特定非営利活動法人ほほえみの郷トイトイ
活動期間(予定)：平成30年度～平成32年度

発表者：山口大学工学部リノベ部

地域の現状と課題

- 活動地域： 山口市阿東地福地域

- 地域の概況

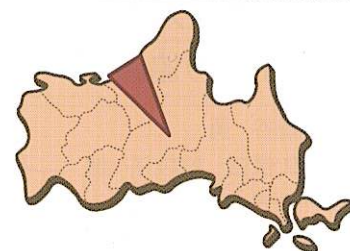
山口県の北東部に位置し、平均標高300mの地域で冬は積雪のある山間部に位置している。

人口は約1200名、世帯数は約600世帯であり高齢化率50%を超える地域で少子高齢化や人口減少が進んでいる。

- 地域の課題およびニーズ

人口減少・少子高齢化に伴い、地域の担い手不足は深刻であり、地域コミュニティを充実させ支え合いの地域づくりが求められている。

増加傾向にある空き家を地域資源として再生することで新たなしくみとしての移住促進に取り組んでいる。



取組の概要

到達目標

空き家を地域で活用するためにリノベーションを実施し、空き家を活用したエリアマネジメントを実現する。

地域協議会の活動内容(予定)

大学等の支援内容(予定)

平成30年度

- 空き家を地域再生の資源として活用するためのリノベーションの実施。

- ワークショップによる住民との意見交換
- リノベーション企画の提案
- DIYによるリノベーションの実施。

平成31年度

- 地域外への情報発信や移住促進の提案及び移住希望者とのマッチングのしくみづくり
- モデルハウスを活用したイベントの実施

- 空き家を活用するための情報発信の提案
- ワークショップやイベントの企画提案

平成32年度

- 空き家を活用した地域マネジメントの効果検証
- DIY型空き家リノベーションによる移住のしくみづくり

- アンケートの実施等による調査など

活動状況①



実測調査

メジャー一本で図面起こし

聞き取り調査

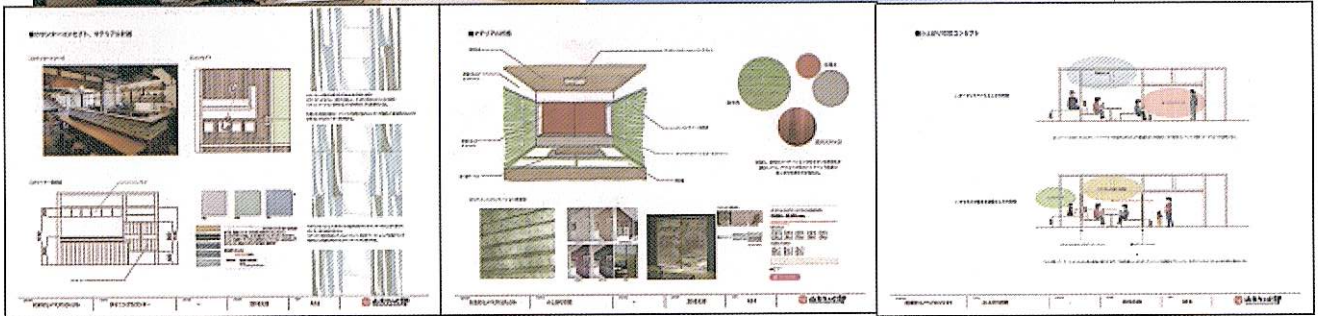
地域の方々に話を伺い、今求められているニーズを聞き取り



活動状況②



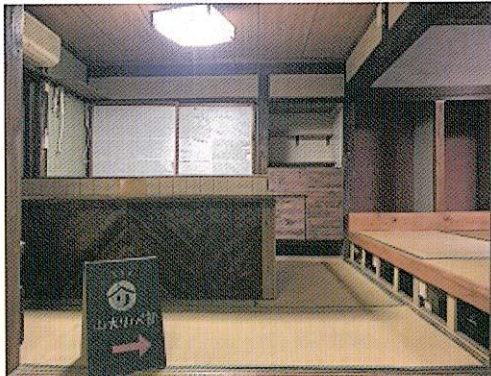
計画・設計
実際に空間となるものを提案



活動状況③

施工

図面に書かれたものを形にする



完成・交流

地域の子供たちに手伝って
いただいたり、実際にでき
た空間を活用してみたり

取組の成果等

- 地域の課題に対してどのような効果があったか
空き家を地域の資源として、学生のアイデアでリノベーションすることで、新しい発想で空き家活用に取り組むことができた。
地域住民を事業に巻き込むきっかけづくりとなった。
- 残された課題や今後の取組
今回の事業でリノベーションを実施した空き家の活用方法の検討
ワークショップ開催や情報発信による移住者とのマッチングのしくみづくり

活動参加者

地域での受入組織

特定非営利活動法人ほほえみの郷トイトイ

人数20名

若い学生さんたちが地福の空き家を再生する活動に協力してくれたことが嬉しかった。

70代女性

学生さんと一緒に木材の塗装に挑戦して、楽しかった。ワークショップでは一緒にアイデアを考えたりできました。

30代女性

空き家を魅力ある空間にリノベしてもらって、ありがとう。地域づくりの現場で感じたことを今後に生かしてください。40代男性

支援大学等

山口大学工学部リノベ部

人数9名

地域の人たちに阿東町の魅力や人のつながり、暖かさを教えてもらう中で自分たちが普段勉強していることを実践的な形でアウトプットできる
あまりない経験になりました。
作業時には、自分たちの予想しないことや、計画通りに行かないことの方が多く
時間も苦労も2倍かかりましたが、
高田さんを初め、たくさんの地域の方が様子を見に来てくださり
その度に少しずつの完成を喜んでくれるのがとても嬉しかったです！M・Y

このプロジェクトに参加した最初の理由は実際に自分たちの手で空間を作り上げる経験を持ちたいからでした。しかし、行ってみると地域の方とのワークショップや交流する機会もあり、ただ建築を学ぶだけでなくそういった方たちの繋がりがりや温かみも感じることができました。皆さん、感謝しています！K・Y

今回アイデアワークショップや施工に参加して、ワークショップの進め方や意見を出しやすい雰囲気作りの難しさ、施工での取まりや仕上がりの難しさを学ぶことが出来ました。また、実際に地域の人との交流で、このまちでは今どんな暮らしをしてどんなことが課題となっているのかを聞き一緒になって解決方法などを話し合い提案していくことが出来ました。
今回のようにただ自分たちの考えだけで設計施工して難しかったな、で終わるのではなく地域の人を巻き込んで設計施工してことで、本当に求められていることを形にして、さらに愛着の持てるものができるのではないかと感じました。K・S

単なる空間づくりで終わるのではなく、たくさんの地域の方々と作り上げることができた空間になったのではないかとと思うととても貴重な経験をさせていただいたんだなと感じます。本当に楽しかったです。K・H

事業名：大道理夢求の里交流館 「憩いの広場整備プロジェクト」

地域協議会名：大道理夢求の里交流館
憩いの広場整備プロジェクト
活動期間(予定)：平成29年度～平成30年度

発表者：徳山工業高等専門学校 土木建築工学科
デザイン研究部

地域の現状と課題

◆活動組織

大道理をよくする会

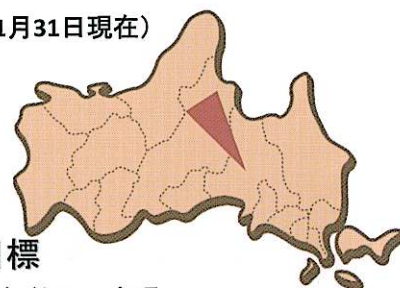
主な活動

加工事業(ほたる工房)・生活交通(もやい便)
高齢者の御用聞き(便利屋)・高齢者サロン
芝桜の里づくり等



地域の概要(平成31年1月31日現在)

人口：372人
世帯数：188世帯
高齢化率：55.4%
標高：300m



◆地域の夢プランの目標

「大道理ならではの豊かな暮らしの実現
～住んでよかった・住んでみたい・訪れてみたい大道理」

地域住民で組織された団体(大道理夢求の里交流館運営協議会)が指定管理者として管理・運営



大道理夢求の里交流館
休校であった小学校を改築し、地域の活動拠点として平成26年10月より供用を開始

地域の課題及びニーズ

- ◆年間を通じての交流機会の創出
- ◆交流館の中庭広場の活用(機能強化)

取組の概要

到達目標

多くの人を楽しみ、笑顔になれる空間を演出(交流館広場にピザ窯の設置)

地域協議会の活動内容

大学等の支援内容

平成
29
年度

- 交流館中庭広場の整備作業(1年目)
- ▼住民、学生の意見交換、ヒアリング
ワークショップ→イメージの共有→事例研究→整備後の姿の可視化



- ▼地域の要望を聞き、専門的立場で
ピザ窯を含む交流館広場の設計

平成
30
年度

- 交流館中庭の整備作業(2年目)
- ▼作業の事前準備、進捗の確認等
- ▼設計図に従って、学生と協働で作業
- ▼レシピづくり等今後の活用方法の検討



- ▼構造等のチェック等、専門的な立場からの助言
- ▼地域住民との協働作業

平成
31
年度



活動状況①

ピザ窯づくり開始！！



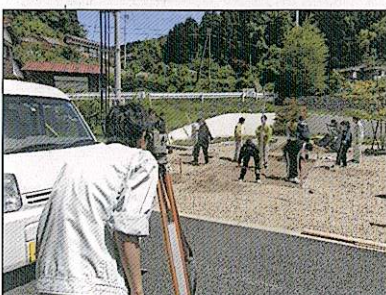
しっかり作業前ミーティング



枠組みを作って…



型枠切断！！



測量してチェック



生コンクリート用の鉄筋敷設



コンクリートを流し入れて…
土台完成！！

活動状況②



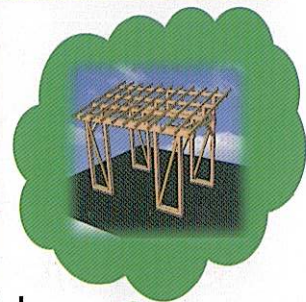
材料を荷卸し…



設計通りの長さに切断



防腐剤をしっかり塗る！



大変だ〜



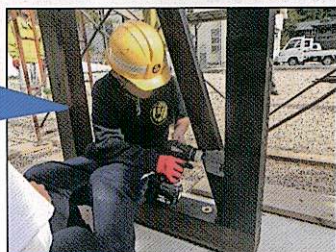
高所での作業も！



設計図どおりに…

屋根完成！！

しっかり
固定！



活動状況③



ピザ窯の下部土台づくり



レンガを敷き詰めて…



土台ができた〜！



上部のドームづくりは



なかなか難しい！

完成イメージ図

3月完成！ピザ試食会を開催！

取組の成果等

●地域の課題に対する取組みの成果

交流館の中庭広場の
機能強化

効果

中庭広場にピザ窯が完成した、交流館の地域拠点としての機能が上がった

年間を通じた
交流機会の創出

効果

地域の旬の農産物を活用したピザづくり体験など、季節に応じた新たな交流事業の開催が可能となった

その他

効果

▼ピザのレシピづくりなどを通じて、地域内での新たな交流が生まれた
▼徳山工業高等専門学校との絆が深まり、今後も連携して地域づくりを行うための体制ができた

●残された課題

- ・ピザ窯を活用した地域活動(イベント等)の充実
- ・地域外への情報発信の強化

●今後の取組み

- ・学生と連携した完成披露イベント企画・運営

活動参加者

地域での受入組織

大道理をよくする会

人数11名

大道理をよくする会

【会長】土田友己

【副会長】秋貞啓子 兼俊勉

【互助部長】秋積達夫

【経済部長】福原靖史

【交流部長】山本達雄

【事務局長】山本並子

【本プロジェクト代表】山田憲正

【地域住民】森藤茂雄 藤井俊明

【大道理夢求の里交流館】山中あゆみ

～事業を通じての感想～

- 世代を超えたつながりができたことが嬉しい！
- 作業は試行錯誤の連続だったが、学生の専門的な知識や地区住民の長年培った知恵や技術など、お互いの長所が発揮される場面が多く、連帯感が生まれて楽しく作業できた。
- 今後はピザ窯を活用して、学生さんとの交流、また地区内外の交流人口を増やす活動を進めたい。

支援大学等

徳山工業高等専門学校

人数24名

土木建築工学科

【5年】横屋翔 國光優作 佐藤隼 田辺萌絵

【4年】河部祐侃 河村篤志 貞本侑香里 守本愛弓
中村智哉

【3年】裏谷万葉

【2年】稲田透直 北村俊樹 清水一樹

【1年】井上綾 内富駿仁 江原慧太 川邊颯大
手島徳己 永田隼大 福嶋了麻 三浦舞桜
湊美空

土木建築工学科 教授 橋本堅一

土木建築工学科 准教授 中川明子

～事業を通じての感想～

- 自分達が設計し、工程を考えながら実際に作っていく作業は授業にはないことなので、大変貴重な経験をさせていただいています。
- 地域の皆さんと一緒に製作するのを楽しんでいます。
- 低学年も積極的に参加でき、「ものづくり」と「地域の方との関わり」の両方を楽しむ活動となっています！



山口県総合企画部 中山間地域づくり推進課
〒753-8501 山口市滝町1-1

電話:083-933-3352 FAX:083-933-2559



やまぐち中山間地域づくりサポートセンター
〒753-8502 山口市桜畠3丁目2-1

電話:083-928-3405 FAX:083-928-3021